

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	壱岐市奨学金貸付事業	整理番号	91001
	根拠法令等	壱岐市奨学金貸与条例	実施義務	なし
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		< 1 >次代を担う壱岐っ子の健全育成 ②学校教育の充実		
総合戦略区分	【4】壱岐の将来を担う子どもたちを育むまちづくり			
	②教育のしまプロジェクト			
	(4) 教育に係る経済負担軽減			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	本市の市民であって、能力があるにもかかわらず、経済的理由によって修学困難なものに対して、奨学金を貸与し、もって有能な人材を育成することを目的とする。27年度まで他の奨学金との併給を認めていなかったが、市民の要望により28年度から併給を可能とした。また、令和元年度から保護者以外の連帯保証人年齢上限を満50歳以下から満65歳以下とした。		
	対象 (誰に、何に 対して)	壱岐市民で経済的理由により修学困難な学生 (高等学校・短期大学・専門学校・大学)		
	目標達成のための 具体的 手段・方法	奨学金貸与額月額37,000円以内 (高校は10,000円以内) を毎月初めに口座振り込み。志願者の中から選考委員会を経て決定する。貸付人員、30名以内。貸与する期間は在学する学校の正規の最短修業年限とする。平成28年度より他の奨学金との併給を可能とした。平成28年度は、1回目(2月～5月)、2回目(10～11月)の募集を受付。他奨学金制度を利用できなかった生徒・学生を救済する奨学金制度として位置づけるために、今後も、年2回の募集をする。奨学金の返還は、卒業後6月後から10年間に半年賦又は年賦で返還する。返還額は元金のみ。		
	目的 (どのような 状態にしたい のか)	能力があるにもかかわらず、経済的理由によって修学困難なものに対して、奨学金を貸与し、もって有能な人材を育成することを目的とする。		

課名:	教育総務課	班名:	総務班	担当者名:	土肥真一									
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を図るための指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4					
		新規貸与者	目標	人	20	20	20	20	20					
			実績	人	7	3								
			達成率	%	35.0	15.0	0.0	0.0	0.0					
		奨学金返還率	目標	%	100	100	100	100	100					
			実績	%	86.9	80								
	達成率		%	86.9	79.5	0.0	0.0	0.0						
	活動指標 (目標達成のために 行う活動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	3					
		広報活動(市報、回覧、ホームページ)	目標	件	3	3	3	3	3					
			実績	件	3	3								
目標														
実績														
目標														
実績														
予算科目	09	款	01	項	02	目	02	大	00	中	00	小	00	細
	事業番号		01124		事務局費									
年度	平成30年度 (実績)		令和元年度 (実績)		令和2年度 (予算)		令和3年度 (予算)		令和4年度 (予算)					
直接事業費	44		48		80		80		80					
財源内訳	国庫支出金													
	県支出金													
	地方債													
	その他特財													
	一般財源		44		48		80		80		80			
	人件費		613		613		613		613		613			
職員	人	0.100		0.100		0.100		0.100		0.100				
	千円	613		613		613		613		613				
嘱託	人													
	千円	0		0		0		0		0				
事業費合計	657		661		693		693		693					

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）					
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 28年度より他の奨学金との併給を可能としたことと連帯保証人の年齢上限を上げたことで市民ニーズを反映している。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 日本学生支援機構及び長崎県育英会制度と同様に、補完的な制度として今後も継続することで見直しは行わない。また、返還金滞納者については、こまめなアプローチをしている。				
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 他の奨学金制度との併給を希望する志願者も多く今後とも本奨学金の利用は見込まれ事業の実施意義は十分ある。	B						
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 対象者は、事業目的に見合っており、事業内容も審査会で検討済みである。	A						
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 適切であり、事業内容も審査会で検討済みである。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 ・他の奨学金制度との併給が可能となったことで全体貸与額の増額により、返還が厳しい状況も生じており、返還方法の検討が必要。 ・大学無償化法による授業料等減免制度の創設及び給付型奨学金の拡充が令和2年4月から始まるが、本制度については、日本学生支援機構及び長崎県育英会制度と同様に、補完的な制度として今後も継続することが必要である。					
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 他の奨学金制度との併給も可能でありサービスは適切である。	A						
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 他の奨学金制度との併給が可能となったことにより返還方法の見直しを検討する必要がある。	B						
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 新規出願者3名への貸付を行った。返還金滞納分については現年度請求時に必ず請求をしているが、達成されていない。	B	<small>・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。</small>					
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 広報の方法と期間も十分であり費用業務量に見合った成果が得られている。	A	総合判定	意見等				
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 本事業は貸付業務及び返還業務について事務処理体制が整っており、費用においても削減の余地はない。	A						
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 本市制度は、日本学生支援機構及び長崎県育英会制度と同様に、補完的な制度として存在しており改善の余地はない。	A						
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算	2.70	【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】					
				① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減				
				③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)				
				現年予算	千円	次年度予算	千円	増減	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	幼稚園預かり保育事業	整理番号	91011
	根拠法令等	岐阜市立幼稚園預かり保育の実施に関する条例及び施行規則	実施義務	なし
	総合計画区分	(2) 福祉・健康づくりの充実で安心のまちづくり～福祉・健康～		
		<5>ゆとりと優しさで育む子育て環境の実現		
総合戦略区分	①児童、母子・父子福祉の充実			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	幼児教育を受けている幼児の保護者のうち、働く保護者等の子育ての支援をする。		
	対象 (誰に、何に 対して)	岐阜市立幼稚園に在園する幼児のうち、預かり保育を希望する園児で対象となるもの		
	目標達成のための 具体的 手段・方法	<p>実施基準：幼児教育を受けている幼児の保護者が以下のいずれかの事由により保育できない時</p> <p>(1) 昼間に居宅外で労働することを常態としている。</p> <p>(2) 昼間に居宅内で当該幼児と離れて日常の家事以外の労働をすることを常態としている。</p> <p>(3) 妊娠中又は出産後間もない。</p> <p>(4) 疾病にかかり、もしくは負傷し、又は精神もしくは身体に障害を有している。</p> <p>(5) 同居の親族等を常時介護している。</p> <p>(6) その他園長が、預かり保育が必要であると認めるとき。</p> <p>保育料：一時預かり1, 200円/日・長期預かり10, 000円/月</p> <p>※R1.10月より幼児教育の無償化に伴い、新2号認定を受けた者については、長期預かり保育料は無料(別途副食費として1,000円/月、年収360万円未満相当世帯、第3子(小学3年生以下)については副食費も無料)</p>		
	目的 (どのような 状態にしたい のか)	幼稚園の教育課程に係る教育時間の終了後、幼稚園の管理下において、希望する在園児を当該施設で預かり保育する。		

課名：	教育総務課	班名：	総務班	担当者名：	齋藤 克重										
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を図るための指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4						
		長期預かり利用者数 (最大利用月の人数)	目標	人	220	200	200	200	200						
			実績	人	178	170									
			達成率	%	80.9	85.0	0.0	0.0	0.0						
		一時預かり利用者数 (年間延べ人数)	目標	人	150	130	130	130	130						
			実績	人	148	85									
	達成率		%	98.7	65.4	0.0	0.0	0.0							
	活動指標 (目標達成のために行う活動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	4						
		園児数	目標	人	385	340	340	340	340						
			実績	人	268	239									
目標															
実績															
事業費等の推移	予算科目	09	款	04	項	01	目	02	大	00	中	00	小	00	細
		事業番号		01156		幼稚園管理費									
	年度	平成30年度 (実績)		令和元年度 (実績)		令和2年 (予算)		令和3年 (予算)		令和4年 (予算)					
	直接事業費	34,225		25,156		29,000		29,000		29,000					
	国庫支出金	2,997		2,532		2,400		2,400		2,400					
	県支出金	2,997		2,532		2,400		2,400		2,400					
	地方債														
	その他特財														
	一般財源	28,231		20,092		24,200		24,200		24,200					
	人件費	2,450		2,450		2,450		2,450		2,450					
職員	人	0.400		0.400		0.400		0.400		0.400					
	千円	2,450		2,450		2,450		2,450		2,450					
嘱託	人														
	千円	0		0		0		0		0					
事業費合計	36,675		27,606		31,450		31,450		31,450						

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）	
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らして、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 園児の半数以上が利用している事業であり、必要である。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 園児の半数以上が利用する事業である。
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 公立幼稚園であり、施設内での実施は困難である。	B		
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 春休み中の預かり保育については、条例で明確化されておらず、園の判断に委ねられるが、他の休み期間中と同一の取扱いをするなど明確にする必要がある。	B		
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 本事業により保護者の子育てや生きがいを支援している。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 園児数が減少傾向にある。	・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 預かり保育に専ら携わる臨時職員を雇用し、預かり保育時の幼児の安全面にも配慮するとともに幼児の心身の健全な発達に寄与すべく体制を整えている。	A		
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 預かり時間の延長等は困難である。	A		
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 利用者数が予定より伸びず今後さらに利用しやすいものとなるよう検討していく必要がある。	B	【2次評価】	
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 本事業は、ある程度採算性を考慮しているが保護者が利用しやすいよう低い料金設定となっている。	B	総合判定	意見等
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 保護者が働きながら幼児の健全な発達が図られる環境が整うことにより、より多くの保護者が本事業を利用することになれば低料金を維持しながらより効率的で充実すると思われる。	B		
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 幼稚園の統廃合等、検討の余地がある。	B		
判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算		2.40		【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】	
				① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減
				③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)
		現年予算		千円	次年度予算
				千円	増減
				千円	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	離島留学生ホームステイ事業	整理番号	91012
	根拠法令等	岐阜市高等学校離島留学生ホームステイ等補助金交付要綱	実施義務	なし
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		<1>次代を担う岐阜っ子の健全育成		
総合戦略区分	②学校教育の充実			
	【4】岐阜の将来を担う子どもたちを育つまちづくり			
	②教育のしまプロジェクト			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	長崎県内の離島留学制度を実施する高等学校が組織している運営委員会に対し補助金を交付する。助成をしている市に対しては県の補助金が交付される。		
	対象 (誰に、何に対して)	長崎県立岐阜高等学校在学対象で島外から留学している学生		
	目標達成のための具体的手段・方法	岐阜高等学校に在籍する島外の生徒がホームステイをしながら就学する場合、高等学校に組織する離島留学運営委員会に対して、寄宿舎代の2分の1(最大40,000円/月)及び留学生の通学にかかる公共交通機関が発行するバス定期券購入費全額を補助し保護者の負担を軽減する。		
		H28年度 1年10人、2年4人、3年3人、計17人 H29年度 1年4人、2年9人、3年4人、計17人 H30年度 1年13人、2年4人、3年9人、計26人 H31年度 1年12人、2年13人、3年4人、計29人 ※平成31年度から、「いきっこ留学制度」里親委託料の市補助金を30,000円/月から40,000円/月に増額したことから、岐阜高校離島留学生ホームステイ費補助金も離島活性化交付金を活用し、いきっこ留学制度同様に40,000円/月に増額した。		
目的 (どのような状態にしたいのか)	長崎県離島留学制度の趣旨に基づき、島外からホームステイをしながら修学している子どもに補助金を出し、留学生として島外からの就学機会を確保するものである。			

課名:	教育総務課	班名:	総務班	担当者名:	松本幸大				
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を図るための指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4
		離島留学生新規受入人数	目標	人	15	20	20	20	20
			実績	人	13	12			
			達成率	%	86.7	60.0	0.0	0.0	0.0
			目標						
			実績						
	達成率		%						
	活動指標 (目標達成のために行う活動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	4
		体験入学参加者数(島外)	目標	人	20	20	20	20	20
			実績	人	12	11			
		目標							
		実績							
		目標							
	実績								
予算科目	09 款	01 項	03 目	03 大	00 中	00 小	00 細		
	事業番号		01126	離島留学生ホームステイ事業費					
年度	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (予算)	令和3年度 (予算)	令和4年度 (予算)				
直接事業費	10,674	14,054	22,118	17,293	17,293				
国庫支出金		6,040	9,120	7,360	7,360				
県支出金	4,425	3,020	4,560	3,680	3,680				
地方債									
その他特財									
一般財源	6,249	4,994	8,438	6,253	6,253				
人件費	1,225	1,225	1,225	1,225	1,225				
職員	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200			
	千円	1,225	1,225	1,225	1,225	1,225			
嘱託	人								
	千円	0	0	0	0	0			
事業費合計	11,899	15,279	23,343	18,518	18,518				

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）					
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らして、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 国際化の時代において老岐高校の離島留学制度の中国語専攻が新設され広くアジアとの交流を目指すものである。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 平成15年度から開始した高校の離島留学であり、これまでも島外からの留学生として入学してくる生徒も増加傾向にあり、ここ最近の入学生数は定員を超えている状況にあり今後も実施する。				
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 国・県からの間接補助を受けての補助金交付のため、市以外での実施は困難である。	A						
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 離島留学生の宿舎確保に係る費用について県の補助金に上乗せして補助を行い宿舎の確保とともに留学生の通学に係る交通費を全額補助し留学生の増加を促進している。	A						
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 老岐高校で学ぶ生徒を島外から募集し滞在費を補助することで留学生の負担を軽減し、市内出身の生徒との交流と良い刺激になっている。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 平成30年9月に開始した小・中学生の離島留学制度「いきっこ留学制度」の開始に伴い、里親への委託料について、市補助金30,000円/月に対し、1/2を離島活性化交付金を活用している。平成31年度から、「いきっこ留学生」里親委託料の市補助金を40,000円/月に増額したことから、老岐高校の離島留学生ホームステイ費補助金も30,000円/月から40,000円/月に増額するとともに、財源に離島活性化交付金を活用した。	・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。				
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 里親への委託料の月額8万円のうち保護者が4万円負担しており適切である。	A						
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 小中学生の離島留学制度創設により、小中高一貫教育に繋がるよう、小中学で歴史学・中国語の取り入れを行う検討の余地はある。	A						
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった H29年3月に実施したPR映像テレビ放映等の効果による体験入学者の増加とともに留学生数も増加した。	B	【2次評価】					
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 H29年3月に実施したPR映像テレビ放映等の効果により体験入学者数が増加した。	A	総合判定	意見等				
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 平成31年度より離島活性化交付金対象となったことにより、市の負担軽減となっている。	A						
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 平成15年度から長崎県が先駆けて高校の離島制度を創設し、県費補助1/2であった。その後、平成31年度より離島活性化交付金対象となったことにより、市の負担軽減となっている。	A						
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算	2.90	【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】					
				① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減				
				③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)				
				現年予算	千円	次年度予算	千円	増減	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	壱岐市中学校体育連盟補助金	整理番号	91019
	根拠法令等	壱岐市補助金等交付規則	実施義務	なし
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		< 1 >次代を担う壱岐っ子の健全育成 ②学校教育の充実		
総合戦略区分				
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	中学校の教育活動の一環として行われる体育活動を通じた生徒の健全な育成を図るため中学校体育連盟の活動に補助する。		
	対象 (誰に、何に対して)	壱岐市中学校体育連盟		
	目標達成のための具体的手段・方法	壱岐市中学校体育連盟の事業計画の事業が円滑に行われるよう補助金を交付する。		
	目的 (どのような状態にしたいのか)	学校教育活動の一環として行われる体育活動を通じて健全な育成が図られるよう、各種大会への出場に要する経費の一部を補助する。		

課名:	教育総務課	班名:	総務班	担当者名:	土肥真一											
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を図るための指標)	名称・内容等			単位	29	30	1	2	3						
		壱岐市中体連大会 (種目数)	目標	種目	10	10	10	10	10							
			実績	種目	10	10	10									
			達成率	%	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0							
		目標														
		実績														
	達成率	%														
	活動指標 (目標達成のために行う活動実績)	名称等			単位	29	30	1	2	3						
		県大会出場種目数	目標	数	10	10	10	10	10							
			実績	数	10	10	10									
目標																
実績																
目標																
実績																
事業費等の推移	予算科目	09	款	03	項	02	目	02	大	00	中	00	小	00	細	
		事業番号		01154		中学校費 教育振興費										
	年度	平成29年度 (実績)		平成30年度 (実績)		令和元年度 (予算)		令和2年度 (予算)		令和3年度 (予算)						
	直接事業費	7,164		7,843		7,317		8,520		8,520						
	財源内訳	国庫支出金														
		県支出金														
		地方債														
		その他特財														
	一般財源	7,164		7,843		7,317		8,520		8,520						
	人件費	613		613		613		613		613						
職員	人	0.100		0.100		0.100		0.100		0.100						
	千円	613		613		613		613		613						
嘱託	人															
	千円	0		0		0		0		0						
事業費合計	7,777		8,456		7,930		9,133		9,133							

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）					
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 中学校体育の向上と中学校体育連盟の円滑で有効な運営に資するため本事業を支援することは必要である。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 中体連大会において10種目全ての開催されており10種目全て代表を選出しており各学校において活発な活動をしている。				
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 市予選から全国へつながる公式の大会への出場助成であり現状以外での実施は困難である。	A						
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 各学校及び予選を勝ち抜いた代表であり適切である。	A						
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 中学校教育活動の一環として行われる体育活動を通じて生徒の健全な育成を図るため中学校体育連盟の活動に補助金を交付することは有効である。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 生徒数の減少によりいずれ種目の減少が見込まれる。	・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。				
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 10種目中10種目に参加があり、概ね適切である。	A						
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 少子高齢化の地域性を考えると効果向上の余地はない。	A						
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 補助金を交付することで事業計画どおり事業が達成されている。	A	【2次評価】					
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 壱岐市中学校体育連盟への補助金であり効率的な運営がなされており、事業の実績により残額については返納がなされている。	A	総合判定	意見等				
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 補助金は適切に使われており現行以上の手法はない。	A						
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 学校間、県との連携は十分なされており改善の余地はない。	A						
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算	3.00	【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】					
				① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減				
				③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)				
				現年予算	千円	次年度予算	千円	増減	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	指定研究費補助金	整理番号	91020
	根拠法令等	壱岐市補助金等交付規則、指定研究事業補助金交付要綱	実施義務	なし
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		< 1 >次代を担う壱岐っ子の健全育成		
総合戦略区分	②学校教育の充実			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	学校における創意工夫をこらした取り組みの実施に対する経費の一部を補助し、児童生徒の健全な心身の育成及び学力の向上を図る必要がある。 また、本市中学生の英語の学力向上は重要な課題であり、さらに後押しするために中学生が英語に触れ、英語を活かし、英語を試す場の確保を目指す必要がある。		
	対象 (誰に、何に 対して)	小・中学校指定研究校		
	目標達成のための 具体的 手段・方法	①平成25年度から小山弥兵衛や心涼尼とゆかりの深い箱崎小学校と旧和田山町(朝来市)の朝来市立東河小学校との交流のため朝来市へ訪問し、先人の業績について理解を深めることで人を思いやり助け合って生きることへの大切さを学び、郷土を愛する心を育てる。 (令和元年度箱崎小学校児童4名が朝来市立東河小学校へ交流のため訪問した。) ②「開かれた学校」から一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へと転換していくことを目指してコミュニティ・スクール推進事業に取り組む。 令和元年度 小学校 9校(渡良・志原・初山・霞翠・瀬戸・那賀・田河・八幡・芦辺) ③中学生英語力向上対策費補助として、英語検定受験料の1/2を年間1回に限り補助する。 平成30年度生徒数764名中、補助金活用受験者数362人(47%) 5級 86人(うち79人合格) 4級111人(うち82人合格) 3級 83人(うち48人合格) 準2級 18人(うち2人合格) 2級 6人(うち2人合格) 計 304人(うち213人合格)		
	目的 (どのような 状態にしたい のか)	指定研究事業の推進校として、学校における創意工夫をこらした取り組みの実施に対する経費の一部を補助し、児童生徒の健全な心身の育成及び学力の向上を図る。 また、中学生が英語に触れ、英語を活かし、英語を試す場の確保を目指し、中学生の英語の学力向上をさらに後押しする。		

課名:	教育総務課	班名:	総務班	担当者名:	土肥真一				
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を 図るための 指標)	名称・内容等		単位	29	30	1	2	3
		研究指定校	目標	校	7	7	7	7	7
			実績	校	7	9	14		
			達成率	%	100.0	128.6	200.0	0.0	0.0
			目標						
			実績						
	達成率		%						
	活動指標 (目標達成の ために行う活 動実績)	名称等		単位	29	30	1	2	3
		英語検定受験者数	目標	人	770	764	759	759	759
			実績	人	301	362	304		
		目標							
	実績								
予算科目	09 款	02・03 項	02 目	02 大	00 中	00 小	00 細		
	事業番号		01147	小・中学校教育振興費					
年度		平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (予算)	令和2年度 (予算)	令和3年度 (予算)			
直接事業費		757	663	764	1,403	1,403			
財源内訳	国庫支出金								
	県支出金								
	地方債								
	その他特財								
	一般財源		757	663	764	1,403	1,403		
人件費		613	613	613	613	613			
職員	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100			
	千円	613	613	613	613	613			
嘱託	人								
	千円	0	0	0	0	0			
事業費合計		1,370	1,276	1,377	2,016	2,016			

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）	
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 児童生徒の健全な心身の育成及び学力の向上を目指す本事業を支援することは必要である。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 必要性、有効性、達成度、効率性全てにおいてA判定であり、受験者数も横ばいであり見直しは行わないことが妥当である。
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 義務教育の児童生徒を対象とするもので市以外での実施は困難である。	A		
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 まさに、地域の教育力や時代変化を見据えた事業で概ね適切である。	A		
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 指定研究事業の指定校が独自の工夫をこらした取り組みを実施することにより、児童生徒の健全な心身の育成及び学力の向上が図られ有効である。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 中学生の英語力向上対策のために、現在、全生徒数の5割程度の英語検定受験者数を増やす必要がある。	・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 英語検定受験料を年間1回に限り1/2補助することで受益者負担は適切である。	A		
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 事業の効果は十分であり今後はさらなる成果が期待できる。	A		
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 研究対象校数は増加しており成果指標は達成された。	A	【2次評価】	
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 英語検定受験希望者数が全生徒数の半数くらいであり、事業推進が必要である。	B	総合判定	意見等
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 毎年、指定校数が増加しており現行以上の手法は考えられない。	A		
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 類似・重複事業は見当たらない。	A		
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算		2.90	
【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】					
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)		② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減			
③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加		④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)			
現年予算	千円	次年度予算	千円	増減	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	離島高校生修学支援事業	整理番号	
	根拠法令等	宍州市離島高校生修学支援事業費補助金交付要綱	実施義務	なし
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		< 1 > 次代を担う宍州っ子の健全育成 ②学校教育の充実		
総合戦略区分	【4】 宍州の将来を担う子どもたちを育つまちづくり			
	②教育のしまプロジェクト			
	(4) 教育に係る経済負担軽減			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	「離島高校生修学支援事業」は、平成24年度に「へき地児童生徒援助費等補助金」のメニューとして新設された制度であり、長崎県では「公立高等学校等離島高校生就学支援費補助金」の事業実施がなされている。宍州市においても県と同様に三島から本島の高等学校及び特別支援学校高等部へ通学する生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、通学費、居住費、帰省費について基準額の範囲内で助成する。		
	対象 (誰に、何に対して)	三島地区から本島の高等学校等へ進学する生徒の通学に要する交通費、居住費及び帰省費を負担している保護者		
	目標達成のための具体的手段・方法	県と抱き合わせ事業のため、県（高校）から申請者の資料提供を受け対象者を確認。 ・通学費：現在みしまフェリー定期月額10,320円は県2万円の範囲内なので全額助成されている。 ・居住費：県20,000円上限。市がその残額について上限（5,000円）の範囲内で助成する。 ※1/2へき地補助金、別途特別交付税措置80%		
	目的 (どのような状態にしたいのか)	三島地区から宍州本島の高等学校等へ進学する生徒に生じる、本島までの船代（通学費）、居住費及び帰省費を負担している保護者に対し、離島であるがために生じる経費を助成することにより本島の学生との均衡を図る。		

課名：	教育総務課	班名：	総務班	担当者名：	齋藤 克重				
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を図るための指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4
		郷ノ浦中（三島地区の進学状況）高校1年生+在学生	目標	人	12	12	12	12	12
			実績	人	12	12			
			達成率	%	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			目標						
			実績						
	達成率		%						
	活動指標 (目標達成のために行う活動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	4
		県補助より自己負担額が多いものについて市が助成	目標	人	8	8	8	8	8
			実績	人	3	2			
		目標							
	実績								
事業費等の推移	予算科目	09 款	01 項	03 目	04 大	00 中	小	細	
		事業番号		01415	離島高校生修学支援費				
	年度	平成30年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和2年度 (予算)	令和3年度 (予算)	令和4年度 (予算)			
	財源内訳	直接事業費	170	120	360	360	360		
		国庫支出金	85	60	180	180	180		
		県支出金							
		地方債							
		その他特財							
	一般財源	85	60	180	180	180			
	人件費	人件費		49	49	49	49	49	
職員		人	0.008	0.008	0.008	0.008	0.008	0.008	
		千円	49	49	49	49	49	49	
嘱託		人							
	千円	0	0	0	0	0	0		
事業費合計		219	169	409	409	409			

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）	
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 三島から本島の高等学校等へ通学する生徒の保護者の経済的負担を軽減することは本島の学生との均衡を図る上で必要である。	判定 A	● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 三島と本島の学生の均衡を図るうえで必要である。
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 公費での補助制度であり、困難である。	A		
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 三島から通学する生徒の通学費は県補助内であるが、部活などの都合により本島の借家に居住している生徒に対する居住費の助成は本島の生徒との均衡を図る上で必要である。	A		
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 三島と本島の学生の均衡を図る事業内容である。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 三島の生徒数が減少している。	・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 三島の学生全員が対象者となっている。	A		
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 三島と本島の学生の均衡を図れている。	A		
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 三島地区から本島の高校へ進学する生徒へ制度の周知を図っており目的は達成している。	A	【2次評価】	
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 通学費は県の補助内であり、居住費についても県補助を超える生徒は少ないため活動指標としては下回っている。	A	総合判定	意見等
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 適切な費用であり、適切な業務量である。	A		
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 県補助額を超える分についての補助である。	A		
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算		3.00	
				【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】	
		① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)		② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	
		③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加		④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	
		現年予算	千円	次年度予算	千円
				増減	千円

令和元年度 個別事業評価調書

基本事項	事業名	壱岐市いきっこ留学制度	整理番号	
	根拠法令等	壱岐市いきっこ留学補助金交付要綱	実施義務	
	総合計画区分	(4) 心豊かな人が育つまちづくり～教育・文化・スポーツ～		
		< 1 >次代を担う壱岐っ子の健全育成		
総合戦略区分	【4】壱岐の将来を担う子どもたちを育むまちづくり			
	②教育のしまプロジェクト			
	(5) 離島留学制度の推進			
事業の対象・目的・内容	事業の背景 (課題・市民の要望等)	少子高齢化が進む中、国境離島新法の制定を機に島外との交流を図ることにより、複式学級の解消や部活動等の充実に繋がり、地域の重要な拠点である学校から離島の活性化に繋げることが重要である。		
	対象 (誰に、何に 対して)	いきっこ留学生に対し、留学に係る経費の一部補助。 1. 里親留学 (里親への委託料の一部を補助) 2. 孫戻し留学 (祖父母等への補助) 3. 親子留学 (実親への補助) ※1ターンのみ		
	目標達成のための 具体的 手段・方法	1. 里親留学 (里親への委託料) ①月額 (月16日以上は1月) : 8万円/月 (内訳: 実親4万円、市補助4万円) ②日額 (月16未満は日額扱い) : 2,600円/日 (内訳: 実親1,300円、市補助1,300円) 2. 孫戻し留学 ①1人目: 3万円/月 ②2人目以降: 1万円/月 3. 親子留学 (1ターンのみ) ①1人目: 3万円/月 ②2人目以降: 1万円/月 ③移住費用支援 (荷物運搬料及び交通費) : 引越し費用の2/3補助 (20万円以内)		
	目的 (どのような 状態にしたい のか)	壱岐の自然環境及び歴史文化、国際交流等のなかで、豊かな学びと地域における体験活動等を願う島外の方を対象に、壱岐市内の小学校・中学校に入学又は転学を希望する児童・生徒を受け入れ、壱岐市の学校の活性化と教育の振興・充実及び地域の活性化を図ることを目的とする。		

課名:	教育総務課	班名:	総務班	担当者名:	松本 幸大				
事業進捗状況・達成度	成果指標 (目標達成度を 図るための 指標)	名称・内容等		単位	30	1	2	3	4
		離島留学生	目標	人	5	10	15	20	25
			実績	人	5	20			
			達成率	%	100.0	200.0	0.0	0.0	0.0
			目標						
			実績						
	達成率		%						
	活動指標 (目標達成の ために行う活 動実績)	名称等		単位	30	1	2	3	4
		広報活動 (見学会)	目標	件	1	5	10	15	20
			実績	件	3	24			
里親委嘱		目標	件	2	3	4	5	6	
		実績	件	2	4				
目標									
実績									
予算科目	09 款	01 項	03 目	03 大	00 中	19 節	12 細節		
	事業番号		01126	離島留学生ホームステイ事業					
年度	平成30年度 (実績)		令和元年度 (実績)	令和2年度 (予算)	令和3年度 (予算)	令和4年度 (予算)			
財源内訳	直接事業費		786	5,029	8,397	12,317	12,317		
	国庫支出金		105	1,871	3,480	4,800	4,800		
	県支出金								
	地方債								
	その他特財								
一般財源		681	3,158	4,917	7,517	7,517			
人件費		613	613	613	613	613			
職員	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100			
	千円	613	613	613	613	613			
嘱託	人								
	千円	0	0	0	0	0			
事業費合計		1,399	5,642	9,010	12,930	12,930			

【1次評価】

総合自己評価（所管部署）

事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）		総合自己評価（所管部署）	
必要性	①市民ニーズや社会環境の変化に照らし、事業の必要性が薄れていないか。	A=薄れていない、B=一部薄れている、C=薄れている 学校は単なる教育の場ではなく、地域発展の核となる重要な役割を担っており、学校から活性化させることが急務である。	判定 A	評価結果 ● A 継続実施（見直しは行わない） ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）	判断理由 これまで留学生を受け入れた中で、様々な家庭環境や学校生活等において、環境を変えて新たな学校生活を望む気持ちが多い。しかしながら、外の自治体においては、募集期間以降は受け入れてもらえない等ある中で、本市においては、事情を伺い柔軟に対応し、一人でも多くその要望に応えるため、今後も実施を行う。
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか。	A=市以外での実施困難、B=一部民間で実施可能、C=民間で実施可能 義務教育の児童生徒を対象とするもので市以外での実施は困難である。	A		
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や、環境の変化に適応しているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 離島留学生として、島外から老崎市へ移住される方を対象に支援を行う。	A		
有効性	④成果指標を達成するために、最適な事業内容となっているか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 留学生を募集するにあたり、広報活動や見学会を行うことで、留学制度の良さを理解してもらっている。	A	今後の課題及び改善策、見直しの状況・方針 ・里親留学の増加により、現在、里親が不足している状況である。里親の確保のために老岐高校の里親からの意見として里親委託料の増額を希望されており平成30年度から、離島活性化交付金を活用し、里親委託料の市補助金について、30,000円/月から40,000円/月に増額した。 ・総合評価で「見直し・改善を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事業の改善見直しを行うことにより予想される効果も併せて記入願います。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載願います。	
	⑤事業対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか。受益者負担等は適切か。使用料等の見直しの余地はないか。	A=概ね適切、B=改善の余地あり、C=見直しが必要 老岐高校の離島留学制度への補助金額と統一している。また、県内の留学制度の補助金も概ね同額程度となっている。	A		
	⑥事業の効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 小中学生の離島留学制度創設により、小中高一貫教育に繋がるよう、小中学で歴史学・中国語の取り入れを行う検討の余地はある。	B		
達成度	⑦事業は当初計画どおり実施され、成果指標が達成されたか。 ※成果指標と連動させること	A=全ての指標達成、B=一部未達成、C=達成しなかった 当初目標値を大きく上回る実績となった。	A	意見等 里親の確保に努めること。	
効率性	⑧事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか。 ※活動指標と連動させること	A=得られている、B=一部得られていない、C=見直しが必要 PR活動や留学希望者のニーズ（年度途中留学）に可能な限りの対応したことにより留学生数が目標数を大きく上回った。	A	【評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況】	
	⑨必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか。	A=現行以上の手法はない、B=一部検討の余地がある、C=検討の余地がある 留学生を始めとする関係者のケアや連絡調整等、担当だけでは対応できなかったが、地域おこし協力隊員の配属によりカバーできるようになってきている。	A	① <input type="checkbox"/> 事業費縮減（事業の見直し）	② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減
	⑩類似・重複した事業や国県施策はないか。組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか。	A=改善の余地はない、B=一部改善の余地がある、C=改善の余地がある 既に国との連携（離島活性化交付金対象）ができています。	A	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持（事業内容の拡充）
		判定平均点（3点満点） A=3、B=2、C=1、空白=0として換算	2.90	意見等 里親の確保に努めること。	【外部評価】 総合判定 A 継続実施（特段の見直しは行わない）